

広報TSB

TOHOKU SEIKATSU BUNKA
UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE

第20号

令和3年度 後期

「本学における 生涯学習の取り組み」

東北生活文化大学
副学長

北折 整



大学や短大などの高等教育機関に対する生涯学習への期待や要請は、近年益々高まりを見せています。人々が生涯にわたって学び続けることの意義は、教育基本法にも謳われています。高等教育機関が教育に係る専門的な知の集積場であるとするれば、それを広く一般の生涯学習に活用するのは、きわめて当然のことです。地域社会に密着した本学の様な学校では、社会的な責務とさえ言えます。

本学では具体的に、市民講座の実施や長期履修学生の制度、科目等履修生の受け入れ、社会人入試など種々の取り組みを行っています。市民講座では、独自の公開講演会や公開講座をはじめ、みやぎ県民大学（宮城県主催）や学都仙台コンソーシアム・サテライトキャンパスなどの枠組みの中で、いずれも本学の教育・研究内容に即したテーマを扱い、毎年多くの市民の皆様から好評を得ています。令和三年度は一部コロナ禍のために開催中止となりましたが、「より良い衣生活のために」チリ

メンモンスターを探せ！」「江戸時代の乗物と駕籠―文化とデザインの話―」をテーマとした講座を計画しました。長期履修学生は、大学における通常四年間の課程を最大八年間に延長して、就労しながら無理なく学位を修得することが出来ます（授業料等の総額は原則として四年分となります）。科目等履修生は大学・短大で開講しているほとんどすべての科目を対象に、高等学校を卒業した者であれば、だれでも履修し単位を修得することが出来ます。

一方で、十八歳で入学してくる学生たちと市民の皆様が共に学ぶことで、互いに良い刺激や影響を受けることのできる環境の設計も重要です。多様な背景を持つ人々が一堂に会するコミュニケーションの「場」として、本学が機能すればと思っています。個人的なことになりませんが、私はこれまで学生のほかに、予備校生や一般市民、あるいは子供たちなどに絵を教えてきました。技術的な優劣は別として、この中で一番制作意欲に差があるのは学生たちです。これには、夫々が置かれている状況や学ぶ目的・意味の違いなどが大きく影響していることは言うまでもありません。似たもの同士とだけではなく、立場や背景の大きく異なる仲間と共に学ぶことで、授業内容のとらえ方の差異や自分の立ち位置などを自覚することの意味は大きいと考えます。生涯学習を人生の時間軸における包括的な学習としてとらえ、本学が「象牙の塔」とならないように進んでいきたいと思っています。



大学家政学科

短信



令和三年度秋・冬の家政学科の様子をお伝えします。新型コロナウイルスの波状的な感染拡大があり、八月に宮城県で緊急事態宣言が発出されたり、年明けからはオミクロン株が大流行したりで、多くの行事が中止や開催内容の変更を迫られました。このような状況にもかかわらず、今年度は遠隔授業も適宜併用しながらも、ほぼ通年で対面授業が実施できました。

健康栄養学専攻三・四年生の臨地実習も昨年同様、受け入れ先確保の困難な状況や実施時期の変更がありました。担当教員らの尽力の末、実習先との調整の繰り返しと、特例によるリモート実習により、何とか予定されたものを終了できました。

九月二十八日に登録販売者試験の合格発表があり、健康栄養学専攻学生の五名が合格しました。さらに昨年、合格した三年生が薬学検定に挑み、四名が一級に合格しました。「薬に強い栄養士」の育成がさらに進んでいます。

新しい授業の試みとしては、「健康栄養学総合演習Ⅱ」の授業の一環として、「管理栄養士の卵による健康政策の立案」を掲げ、現役の議員を計四回招き、健康政策の立案をテーマとしたグループワークがなされました。最終日（一月二十一日）には、三名の議員（県会・市会）を審査員として招いて「政策発表会」と称するコンテストが開催されました。

大学祭は十一月二十一日に昨年同様にオンライン

開催され、今年も健康栄養学専攻の学生たちが運営の主力を担いました。同専攻では「秋の献立紹介&郷土料理紹介」と題し工夫を凝らした調理の動画配信を行いました。

服飾文化専攻学生を中心とするファッションショー学生実行委員会は大学祭ファッションショーを無観客で開催し、新作の衣装をまとったモデルがステージを闊歩する姿を動画配信しました。この時の衣装作品は、一月二十九日から泉ショッピングプラザ・セルバで開催された「セルバ月いち文化祭」で、服飾文化専攻学生が課外活動や授業等で製作した作品などとともに出品・展示されました。さらに、恒例のファッションショー外部公演も、二月二十三日にエルパーク仙台での開催を目指して準備中です。

最後に人事異動ですが、三月末日付で曾根正彦教授および半澤真喜子講師が退職されます。本学の教育研究活動へのご貢献に深く感謝申し上げますとともに、今後のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。



大学美術表現学科

短信



平素、学生たちは授業以外で作品制作や、外部（企業や県・市）からの依頼で商品企画・デザイン等、制作を行っています。作品展では河北美術展やその他の展覧会、またギャラリー、画廊で出品・発表を行っています。学内では「学科内コンクール」や「大学祭」に出品します。四年生では「卒業研究」に取り組み、卒業制作展に向けて準備をします。

しかし、このところ学生の活動が大学施設の利用など時間的な制約を受け、思うようにいきまませんでした。大学祭もオンラインによる開催となりました。

●第四十八回学科内コンクール

そのような中「学科内コンクール」は、小規模開催となりましたが、ぎゅっと詰まった中身の濃い展覧会となりました。学生それぞれが限られた場所・時間の中で工夫して制作してくれたおかげだと思っています。特別賞として「画廊賞」を設けており、中本誠司現代美術館、晩翠画廊、ギャラリーエチゴ、ターニアラウンドから賞をいただいております。また理事長、学長からも賞が授与されました。

実際に作品を見て行きますと、それぞれに工夫がなされ、その世界観に引き込まれました。絵画作品では色のセンスや描写等、魅力ある作品が多く、とても楽しませてくれました。

特に印象的だったのが会場正面の大理石を彫った手の作品と、その隣にあった恐竜の骨を発掘して来たような大きな陶芸作品です。「人の腕」と「恐竜の骨」

と、どちらもテーマとなる対象をリアルに表現した完成度の高い作品でした。技術的にも優れ、今後が大いに楽しみます。両作品は優秀賞と最優秀賞を受賞し、高い評価を得ています。

(二〇二二年十月十五日)

会場 大学二号館三階アトリエA)

●第五十四回卒業制作展

美術学部となって三年、今回の展覧会は家政学部「生活美術学科」として最後の展覧会です。先行きの見えない不安や閉塞感と、今までにない制約の中で、たくましく制作し作品を仕上げました。作品に込めた思いやこだわり、自分らしさの追求が作品から感じられました。この展覧会は学生たちにとって最後の成果発表と同時に新しい出発になります。

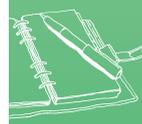
(二〇二二年二月十一日～二月十六日)

会場 せんだいメディアアテーク五階)



短大生活文化学科

短信



今年度後期の生活文化学科の近況をお知らせします。

後期の対面授業は、新型コロナウイルス感染症の第五波が落ち着き、第六波がピークを迎える前には予定通り行われました。二年生の学外実習は、昨年同様、新型コロナウイルス感染症拡大防止に最善を尽くしながら行われました。大学祭は十一月にオンライン開催となり、一昨年まで例年行われていたような専攻企画は行われませんでした。

食物栄養学専攻は、一年生の栄養士基礎演習がまず保育園や学外の施設見学がキャンセルとなりました。二年生の給食管理実習Ⅲは、十一月から十二月に保育所、陸上自衛隊駐屯地、特別養護老人ホームに分かれて、五日間の校外実習が行われました。そして一・二年生合同で、一月二十六日に校外実習報告会が行われました。その他、フードエンターテインメント演習を受講している学生が、十月十二日から十七日に開催されたテーブルコーディネイト展に出席しました。

子ども生活専攻は、二年生が十月に幼稚園実習を行いました。一月三十一日に一・二年生が集まって教育実習(幼稚園実習)報告会、保育実践報告会を行う予定でしたが、二年生のみオンラインで集まりました。一年生は、二月に基礎実習(ますみ幼稚園)を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大が急拡大したため、キャンセルとなりました。

地域貢献活動として、新型コロナウイルス感染症拡大防止に注意しながら、両専攻の有志の学生で、子ども食堂のボランティア活動が行われました(詳細は本学ホームページからブログをご覧ください)。

学生の学びに関するトピックとして、令和四年度から、食物栄養学専攻で「フードサイエンティスト」「食空間コーディネーター三級」の資格を取得できるようにあります。フードサイエンティストは食品の商品開発や検査など、食空間コーディネーターはホテルやレストランのプロデュース、テーブルウェアの開発などに携わるスペシャリストに向けた資格です。前回の学科短信でお知らせした子ども生活専攻のピアヘルパーと共に、これらの資格は栄養士、保育士、幼稚園教諭の免許・資格と合わせて取得することで、学びを深め、仕事の幅を広げることを期待しています。





大学服飾文化専攻 1年

四月一日から、成年年齢が十八歳になります。それは、大人としての自覚に加え、合理的かつ適切な意思決定に必要な「消費者力」が重要になることを意味します。ただし、飲酒・喫煙などの年齢制限(二十歳以上)は変更されません。

今後、学生一人ひとりの「消費者力」を高め、大人としての責任や行動を促していく所存です。

『苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生む。(ローマの信徒への手紙より)』

大学服飾文化専攻 2年

服飾文化専攻二年生は、学内外での活動に意欲的に取り組みました。家政特別演習(研修旅行)ではオンライン産地研修、平塚聖子客員教授や卒業生の協力、本学園産学連携協議会加盟企業様のご尽力のもと広く学ぶことができました。また、ファッションショーに参加し精力的に活動する学生もみられます。

今後学業面では専門科目の履修が増え、学業の集大成「専門研究」も始まります。残り半分の学生生活も充実させてほしいものです。

大学服飾文化専攻 3年

専門研究Ⅰの発表も終了し、みな一安心という今日

この頃です。特に、専門研究は大学の様々な講義・実験・実習の集大成ともいえる教科で、来年度の専門研究Ⅱにつなげ、各個人の専門知識を飛躍的に高めるために、休日返上で取り組んでいる姿も見受けられました。早いもので大学生活も最終学年を目の前にひかえ、就職活動をしなごらの、多忙な日々に入入しつつあります。

大学服飾文化専攻 4年

この四年間、たくさんの思い出作りをしました。大学での勉強、資格、免許、アルバイト、実習、研修旅行、就活、ファッションショーなど、皆が様々なハードルを乗り越えてきました。四年前、同じキャンパスに集まった九人がそれぞれ別々の道を歩もうとしています。お互い、進む道は違っても、この四年間を忘れずに、そして仲間をいつまでも大切に、謙虚な気持ちで、自分自身を磨いていってほしいと思います。

大学健康栄養学専攻 1年

今年度の後期も感染症対策を万全にしながら、ボランティア活動を行い、秋にはSDGsの取り組みとして、リンゴの皮で堆肥を作りクラス全員が一株ずつピオラの苗をプランターに植えました。大学祭では、先輩たちと一緒に郷土料理や和食の献立を作成し動画を作りました。一年生から管理栄養士国家試験の過去問題に取り組み、今、学んでいる科目から試験勉強が始まっているという意識を持ち、一人一人が互いに励まし合いながら目標に向かって頑張っています。

大学健康栄養学専攻 2年

後期は初めての大量調理実習を行い、調理に加え献

立作成、食券の販売など試行錯誤しながらも協力し合い実習に励む姿が見られました。

コロナ禍により例年行っている校外研修は実施できませんでしたが、三年生になると行われる臨地実習に向けて先輩方の実習報告会を聴講するなど、事前準備を行ってきました。

大学生活も折り返し地点となりますので、それぞれの進路に向けてより一層前進できるようサポートしていきたいと思います。

大学健康栄養学専攻 3年

三年生はコロナ禍の影響で一部日程変更もありましたが、栄養士・管理栄養士業務を学ぶ学外実習で貴重な経験を積みました。また、課題研究の配属先も決定し、それぞれの分野で研究を進めています。十二月には栄養士実力認定試験を受験し、三年間の学修の振り返りを行いました。四年次には学業に加え就職活動も加わり、より一層忙しくなりますが、引き続き健康面にも留意し、それぞれの夢や目標を叶えてもらえるよう、支援してまいります。

大学健康栄養学専攻 4年

大学生活の半分がコロナ禍となり、校外実習においては、日程の急遽変更・リモート対応など、かなり制限がある中で、学生は一生懸命に対応してきました。実習が終了した現在は、管理栄養士国家試験受験に対する意識が高まっていると思います。模試の結果に一喜一憂することなく、確実に知識を身につけて受験に臨んでもらいたいものです。

何事にも岐路があります。良い方向に進めることを

願っています。

大学美術表現学科 1年

四月の入学式後のオリエンテーションでは、静かに話を聞き、休み時間も自分の席で大人しくしている学生が多かった印象です。これから友人を作って楽しい大学生活を送れるだろうかと余計な心配をしておりましたが、前期・後期の授業を終える頃には気の合う仲間を見つけ、時には助け合い、協力しながら大学生活を送れているようです。

二年生からは少しずつ専門分野の授業が増えていきます。しっかり計画を立て、少し先の自分を想像しながら勉強や制作に励んでもらいたいと思います。

大学美術表現学科 2年

現状を「宙吊り」と呼んでみます。学内行事や課外活動にかかる制約のうちに身動きの自由を絶たれ、同時にその自重を自らが支えなければならぬ不安な保留状態です。しかし、日々の授業や日常の断片に垣間見える宙吊りの一人ひとり、揺らぎの中で停止しているのではなく、表現者の繭として外界との接触を求め、絶えず振動しているように見えます。感覚の蠢き。三年次から専門コースごとの授業がはじまります。

大学美術表現学科 3年

今年度もコロナの影響により、制作活動に制約のある年となりましたが、学科内コンクールや公募展への出品等、今できることに挑戦する姿が見られました。四月からは、卒業制作が始まります。すでに制作案は出来上がっていますが、その内容に沿って計画的に制作を進め

ることが大切です。四年次は就職活動や教育実習等も重なり、多忙な一年になります。体調管理に努め、残りの大学生活を有意義に過ごしてほしいと思います。

大学生活美術学科 4年

四年間の集大成として卒業研究に取り組みました。コロナウイルス感染症対策による制約の中で各々が試行錯誤し作品を完成させました。二月中旬に第五十四回生活美術学科卒業制作展を開催し、多くの方にご来場頂きました。生活と美術が結びついた生活美術学科らしい展示となったと思います。生活美術学科の歴史はここで幕を降ろすこととなりますが、地域のニーズに寄り添い、新たに美術学部としての歴史を刻んでいきたいと思っています。

短大食物栄養学専攻 1年

一年生は、忙しい短大生活にもようやく慣れ、後期の期末試験を終えてほっとしているところですが。授業外では、子ども食堂のボランティア、オープンキャンパスや入学予定者支援などの学内行事スタッフ、企業でのインターンシップ、食生活アドバイザー三級へのチャレンジ(七名合格)など、自己研鑽に励んでいます。これからの一年間、多くの友人、教職員、地域の方々と交流を通して、さらに成長していくことを期待しています。

短大食物栄養学専攻 2年

学生たちはいよいよ卒業の時を迎えました。この先の進路もほぼ決まり、巣立つ日待っています。一月末に開催された校外実習報告会では、皆大きく成長し

た姿をみせてくれました。彼らはコロナ禍の最中に入學し、入学式を始め全ての学校行事が中止となる中で二年間を過ごしました。そんな苦しい生活によく耐えて、学業を全うしました。この稀有な経験は、彼らのこれからの人生に必ず役立つことと信じます。

短大子ども生活専攻 1年

一年次の基礎的な学びを終え、二年次の本実習に向けて春休みには自主的に園見学や、子ども食堂など様々なボランティアを行っている仲間もいるようで頼もしく感じております。

反して、理想と現実の厳しさに葛藤する仲間も出てくる時期です。そんな時、一番頼りになるのは、同じ夢を抱いて日々頑張っている仲間の励ましです。クラス運営では、「自主性」が育つように声かけをしてきました。仲間と意見を出し合い、協力しあえる学びの場ができてきたようです。

短大子ども生活専攻 2年

子ども生活専攻二年生は、五月二十四日から始まった保育所実習Ⅰを皮切りに保育所実習Ⅱ、施設実習、幼稚園教育実習と十週間の本実習を行いました。前年に引き続き、コロナ禍により、例年に比べて何かと制約の多い実習でしたが、皆、一生懸命にそれぞれの課題に向き合いながら無事終えることができました。

実習を終えると息つく間もなく就職活動が始まりました。学生たちは自分の目指す道を見つけ、今まさに学び舎から飛び立とうとしています。短大生活の中で学んだことを生かし、今後更なる活躍をしてくれることを心から願っております。

仙台市社会福祉協議会との パートナーシップ協約

令和三年八月二十五日、本学は、仙台市社会福祉協議会と「ボランティア活動の連携・協力に関する協約」を締結しました。本学の地域連携活動「ワクワクぶろじえくと」は、震災後から三百以上実施されており、今年もコロナ下ではありますが、「子ども食堂」のボランティアを中心に活発に行われています。学生のボランティアに対する意識は今だからこそ高まっていると言えると思います。協約締結に伴っては、広報誌「ぼらせん」への記事の掲載を皮切りに、ボランティアフォーラムへの資料提供及び学生の参加、フードドライブでの食品提供など、様々な活動が広がっており、二月末には「仙台市災害ボランティアアセンダー運営サポーター養成講座」も開催される予定です。今後ますます連携を密にし、学生のボランティア活動を推進していきたいと考えています。



オンライン大学祭「交響」



令和三年十一月二十一日、昨年から学び、動画撮影やライブ配信など新しいアイデアを活用して、大学祭を開催しました。無事に開催できたのは、ひとえに学生たちの飽くなき探究心とねばり強さの賜物です。あらゆるものが「例年通り」には進まず、準備期間も限られたなかでも、各コンテンツはどれも笑いあり、学びありの傑作ぞろい。本学Webサイトの特設ページから事後視聴もできます。ぜひご覧ください。

日常の生活や文化にかかわるあらゆる局面で、大なり小なりモデルチェンジが求められています。学生たちは、大学祭の模様を広く発信するところまではたどり着きましたが、どこか物足りなさも感じていたようです。新しいアイデアから次は、満足できる大学祭を目指します。

三島学園創立百二十一年記念 東北生活文化大学 美術学部教員展

美術学部では市内の晩翠画廊において、学園の「新たな一歩」を踏み出すことを祈念した作品展を開催しました。佐藤一郎学長の絵画作品をはじめ、美術表現学科教員の作品を中心に、多彩な美術表現・技法の作品を展示しました。

会場では、元宮城県美術館館長の有川幾夫氏による「三島学園とみやぎの美術家」（三島学園創立百二十周年記念特別講演会）の内容を記録した冊子をお配りしました。

（令和三年十月十日～十月十七日）

会場 晩翠画廊

出品者 佐藤一郎学長（写真・下段右絵画作品）
はじめ 安住英之／井上直美／大塚恵子／落合里麻／加美山裕子／北折整／佐々木輝子／佐藤淳一／鈴木専／立花布美子／福田一実／三上秀夫／山口綾子（五十音順）



フレスコキククチ×生文短大 コラボ弁当

食物栄養学専攻では「フレスコ株式会社（フレスコキククチ）」と協働で、お弁当のメニュー開発・販売に取り組んでいます。栄養士必修科目「栄養指導論実習」の履修者全員が、地域での実践活動に挑戦します。二〇二一年度は四チームに分かれて試作や栄養計算を重ね、商品部のバイヤーの方に提案しました。審査の結果、栄養面と華やかさを考えた「愛彩弁当」と「選べる宝箱弁当」が採用されました。販売促進の工夫として、美術学部の学生に弁当帯のデザインをしてもらい、生文短大の学生らしい雰囲気を出しました。活動成果として、一ヶ月間で約五千個を販売していただきました。学生たちは、初めての経験で苦労が多かった分、達成感を感じられたようです。



公開講座… チリメンモンスターを探せ！



令和三年十月三十日、六号館・学生ホールにおいて、五組十三名の親子を対象に、公開講座を実習形式で開催しました。

チリメンモンスター（略称…チリモン）とは、ちりめんじゃこの中に混じっている魚、タコ、カニの子どもなどの小さな生き物たちのことです。これらの魅力的なチリモンたちを探し出す「チリモン探し」は、海の生き物、食べ物、環境などについて楽しみながら学ぶことができる教材として知られています。公開講座では海の生きものに関するクイズ、ミニ講義、実習を行い、会場設営、参加者への対応などを食物栄養学専攻一年生六名が担当しました。学生一人ひとりが責任をもって参加者に説明・指導したことは、学生自身にとってもよい経験になったのでは

ないでしょうか。講座終了後に「また大学行事の手伝いをしたい」と感想を聞かせてくれたことをとても心強く、そして嬉しく思いました。今回の公開講座に関わって下さいましたみなさまに心から感謝いたします。

双葉ヶ丘キャンパス構想

本学園は、株式会社東日本放送（KHB）の長町移転にともない、虹の丘キャンパスに隣接している旧日本の土地・建物を今年度中に取得する予定です。これによって、キャンパスを広げ、マルチメディアやデザインを学ぶ新たな拠点づくりを行い、ITやAIを取り入れた芸術表現の可能性を広げたいと考えています。

美術学部は、以前の生活美術学科を土台として令和元年に設置されて以来、入学者が大幅に増加。また、本学園の特色を最も鮮明に学外に示す学部です。

このキャンパス拡大により、仙台市、宮城県あるいは東北地方の美術教育・研究、さらには生涯学習など地域貢献を行う拠点として、整備する計画です。



PHOTO ALBUM

(令和3年度 後期)



2021夏期高校生のためのデッサンセミナー
大学美術学部によるデッサンセミナーが今年も開催されました。新型コロナウイルス感染拡大に伴い、8月7日(土)は対面、8月29日(日)・9月12日(日)はオンライン形式となりました。



令和2年度入学式
コロナの影響で未実施だった令和2年4月入学者の入学式を、9月15日(水)百周年記念ホールにて挙行いたしました。代表学生のみ出席し、後日学生・教職員対象にオンデマンド配信を行いました。



テーブルコーディネート展
10月12日(火)から17日(日)まで東北電力グリーンプラザ・アクアホールにて開催されたテーブルコーディネート展に短大食物栄養学専攻2年生有志が参加しました。



**令和3年度学都仙台コンソーシアム
サテライトキャンパス公開講座**
11月20日(土)に大学美術学部の落合里麻講師による公開講座「江戸時代の乗物と駕籠一文化とデザインの話」が開催されました。



三島学園同窓会より学生生活支援金(金券)贈呈
11月25日(木)に三島学園同窓会よりコロナ禍で勉学に励む学生たちへ学生生活の一環として学生生活支援金(金券)が贈呈されました。学生は大学生協・学生食堂で金券を利用して昼食や文房具等を購入することができました。



**オープンキャンパス・
個別相談会・オンライン説明会**
令和3年度後期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、個別相談会やオンライン説明会を実施しました。12月5日(日)には来場型のオープンキャンパスを開催することができました。



のはらうた発表会
1月20日(木)、短大子ども生活専攻2年生が、保育内容(表現Ⅱ)の授業で発表会を行いました。今年も工藤直子さんの詩集「のはらうた」の詩の中から1篇を選んで劇化するという取り組みを行いました。



セルバ月いち文化祭
1月29日(土)から2月15日(火)まで泉ショッピングプラザ・セルバ3階にて大学服飾文化専攻の作品(ファッションショーの衣装、課外活動や授業で制作した作品)展示が行われました。



いずみ絆プロジェクト支援事業
大学健康栄養学専攻の川俣幸一教授と学生有志が泉区から助成を受け、スポーツキッズのためのおにぎりレシビを作成。2月25日(金)から3月3日(木)には泉6大学まちづくりフェスティバルにて活動報告会を行いました。

就職支援センターから

◎最近の就職活動の現況

就職活動の早期化がとどまるところを知りません。大学3年生の8月から始まる夏のインターンシップが実質の就職活動スタートであることは周知の事実で、大手企業ばかりでなく中小企業も競い合うようにインターンシップに参入し、年々企業間の人材獲得競争が激しさを増しています。具体的には、エントリーシートによる書類選考やSPI等の能力適性検査の選考に合格した学生だけをインターンシップに参加させて早々と内々定を出すということが常識となっています。事実、本学でも8月にインターンシップ先の企業から内々定を得た大学3年生がいます。また、他大学では、大学1年生がインターンシップ先の企業から内々定を得たという話も聞きます。企業の採用活動は非常に変化の激しい世界です。例えば、新型コロナウイルス感染症が拡大している状況下では、Zoom等のオンライン会議システムを活用して採用活動を中断することなく継続したり、あるいは、大学3年生よりも下級生の1・2年生のうちから青田買いが行われています。このようなことから大学3年生からの就職活動準備では間に合わなくなると思われれます。大学1年生のうちから頭の片隅に自分自身の将来を見据えながら、大いに学び大いに遊んで多くの経験をし、充実した学生生活を過ごして欲しいと思います。



このロゴマークは、本学の理念・目標を表現し、広く学内外にアピールするために、大学創立50周年を契機に作成し、平成22年4月1日に制定されました。東北生活文化大学・同短期大学部の英語表記の頭文字「TSB」をモチーフにし、人を結び繋ぐことがイメージされています。「広報TSB」も、保護者と大学とを結ぶ懸け橋となることを願って命名しました。

広報TSB 第20号

[発行] 令和4年(2022年) 3月1日

東北生活文化大学・東北生活文化大学短期大学部

〒981-8585 仙台市泉区虹の丘1丁目18番地の2

TEL 022-272-7520 FAX 022-301-5602

ホームページ <https://www.mishima.ac.jp/tsb/>

Facebook <https://www.facebook.com/mishima.tsb>

Twitter https://twitter.com/mishima_tsb